中濃圏域　各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1	変更	医療法人香徳会 関中央病院	関市	【現状、特徴】 地域包括ケア病棟50床、回復期リハ病棟50床、療養型病棟50床で運用中。地域包括ケア病棟は地域からの直接入院が、また回復期、療養型は地域の急性期病院からの紹介入院が主であり、いずれも高水準の稼働率を維持している。 【課題】 常勤医の確保　特にリハビリテーション専門医	地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として、要介護状態高齢者の様々な医療ニーズに対応する。具体的には高度医療を要さない急性病態の診療、要介護状態を改善するリハビリテーションをさらに充実する。今後は病院から地域へのアウトリーチとして特に在宅医療分野に注力する予定。	実施 済み					○	①2018年3月に10対1入院基本料から地域包括ケア入院基本料へ変更し病院全ての病床を回復期、慢性期機能へ変更した。 ②上記に記載あるように稼働率が良好である ③地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として今後も維持継続する ④現状と同様に地域との連携を図る 以上のことより、現状維持とする
2		岐阜県厚生農業 協同組合連合会 中濃厚生病院	関市	【現状、特徴】 救急救命センターを併設し、へき地医療拠点病院、感染症指定医療機関、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠点病院等の指定を受け、地域の基幹病院として医療を提供している。 【課題】 急性期の治療を終え、在宅復帰に向けリハビリ等を行う回復期病床の不足により退院調整が難航している。 また、医師不足により十分な医療提供ができていない診療科もあり、今後は医師の働き方改革による影響も懸念される。	地域の救急医療を担う上で、急性期を中心とした医療を継続するとともに、当圏域内で不足している回復期リハビリテーション病棟の設置について検討する。今後の人口動態や受療動向を踏まえ、経営面を含めた適正な病床機能の在り方及び病床数を検討し、地域にとって最良な医療提供体制を構築する。	○		実施 済み				①地域包括ケア病棟から当圏域内で不足する回復期リハビリテーション病棟への転換を計画中 ③ ・平成30年4月に「歯科・口腔外科」を開設した。 ・がん診療の中心的な病院となるべく、施設設備等の整備を行い、令和2年3月に「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受け、がん医療の充実に取組んでいる。
3		美濃市立美濃病院	美濃市	【現状、特徴】 　高齢者を中心とした急性期及び回復期（一部慢性期まで）の機能を有し運用しています　200床以下の在宅医療支援病院として地域の在宅医療の支援を併設する訪問看護センターにより行っています 【課題】 　医師不足（常勤）、看護師ほか医療スタッフの確保 　当直体制の維持	併設する健康管理センターにより地域の健診体制の強化をすすめることも含め、現在の方針に基づき地域密着型の地域包括ケアシステム支援病院としての機能を充実させる				○			果たすべき役割を将来的に継続的に地域に提供するために、医療スタッフの安定確保が最大の課題であり、公立病院経営強化ガイドラインが示す他施設との医師をはじめとする医療スタッフの派遣連携体制を構築することを希望している
4		太田病院	美濃加茂市	【現状、特徴】 地域住民が安心して日々生活ができるように、地域に必要とされる医療を提供する。 【課題】 常勤医師が中心メンバーが50歳を超えてきたこと。	急性期、回復期、慢性期と病床数は30床くらいずつで管理・運営は非常に大変だけど、地域住民からは本当に必要とされている。						○	本当に医療機能を集約して効率化することだけが地域住民の医療福祉の向上になるのでしょうか？

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
5	変更	中部国際医療センター	美濃加茂市	【現状、特徴】 地域の健康を守る拠点として、地域住民に対する健康教育プログラムの提供を通じた予防活動から、災害時における医療支援の拠点、地域の医療機関との連携を通じて、地域全体での継続的かつ包括的な医療を提供している。また、高度急性期・急性期医療を中心に、24時間365日断らない救急医療を実践すると共に、専門的な検査・手術、先進的かつ高度ながん医療を提供している。2024年春には県下初となる陽子線治療を開始予定であり、更なるがん医療の充実に向け取り組んでいる。 【課題】 2022年1月の新病院移転により急性期病床数は1.14倍と増加した一方、年間の手術室手術件数4,061件(前年2,810件)、全麻件数2,006件(前年1,396件)、その内、悪性腫瘍手術件数903件(前年631件)と各々1.4倍程度増加、ロボット支援下手術においては176件(前年92件)1.9倍と顕著に増加している。また、救急車受入5,601件(前年4,151件)、新入院患者数12,907人(前年8,636件)と、2022年の開院以前と比べ1.5倍程度増加している。患者数の増加に伴い急性期病床の病床稼働率は100%で推移しており、対応する医師・看護師・医療従事者の確保とと共に、救急患者の病床をいかに確保していくかが課題である。また、感染症法に基づく医療措置協定における流行初期の新興感染症対応病床を確保してくためには、更なる急性期病床の確保の必要性が高まっている。	中濃圏域の急性期医療を担う病院として、医療従事者の充実を図りつつ、専門的な手術・がん医療等の先進的かつ高度な医療を提供、災害拠点病院としての機能を整備し、自然災害への対応を図る。周辺医療機関の救急受入機能が低下する中、安定的な救急医療体制構築が喫緊の課題であることから、他の医療機関での受入困難な患者の搬入等、救命救急医療体制を充実させていく。また、新興感染症の感染拡大に備え、救急患者をはじめとする急性期患者の受け入れを制限することがないよう、新興感染症対応病床を整備していく。	○						2022年1月の新病院移転後、年間の手術室手術件数が4,000件を超え、特に圏外流出の大きかった呼吸器領域の充実と共にロボット支援下手術の領域拡大により、悪性腫瘍手術1.4倍・ロボット支援下手術1.9倍と顕著に増加した。また、悪性腫瘍手術増加に伴いLDT(Laboratory Developed Test)としての遺伝子パネル検査数も166件(前年105件)1.6倍に増加、陽子線治療・光免疫療法等の新たながん治療の導入により高度急性期の需要が増加しており、昨年度の報告で既に記載してあるが、急性期機能45床の高度急性期機能への見直しが必要と判断している。 また、既に2022年1月の新病院移転時より、新型コロナ対応で止むを得ず回復期機能46床を急性期機能として運用していた(新型コロナによる特殊事情として調整会議での協議を実施せず)。一方で、下呂等の圏域外からの搬入件数が増加する中、救急車搬送受入件数が6,000件に迫り、救急搬送困難事例の搬入件数も2022年度は85件と前年度比1.6倍(前々年度比3.7倍)と顕著に増加。現時点で急性期病床の病床稼働率が100%を超え、急性期病床のベッドコントロールが困難な状況にあり、救急及び流行初期の新興感染症対応病床を確保していくため急性期病床の充実が必要と判断した。そのため、新型コロナ前は回復期機能として運用していた46床について、新型コロナ対応は終わったが、回復期機能へは戻さず、引き続き急性期機能として運用する。
6		中部脳リハビリテーション病院	美濃加茂市	【現状、特徴】 令和4年6月にコロナ臨時医療施設として賃貸していた病棟の返還により令和4年8月より休床中であった42床(回復期病棟)を稼働。令和5年3月に宿泊療養施設として賃貸していた病棟も返還された。今後は残り58床を稼働し脳血管疾患等の回復期医療に注力していく。 【課題】 医師、看護師、医療スタッフの確保	急性期を経過した脳血管疾患、整形外科疾患の患者の在宅復帰を目的とした回復期リハビリテーションの提供						○	地域に不足している病床機能である回復期の分野を担う。
7		医療法人社団耀和会 濃成病院	可児市	【現状、特徴】 ・入院病棟60床は、療養病棟に特化。 ・外来は内科、外科、整形外科等対応。 【課題】 ・地域内において療養特化していることは周知されているが、新型コロナウイルス感染症の発症以来、従来通りの患者移動に多少の困難を来たしている。	・現在の療養型病院として機能していく所存であります				○		○	④複数医療機関による連携について深化させていきたい ⑥現状維持という部分は、地域内に療養型病院が必要不可欠と考え、近隣病院の要望にも応え運営していきたい又、病院規模(人員)からも当面、現状維持方針で継続運営していく考えである

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
8		独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院	可児市	【現状、特徴】 令和3年度　急性期病床利用率　79.8%　地域包括病床利用率63.7% 令和2年度に250床から190床へダウンサイジングし、看護体制についても7対1から10対1に変更しており、病院機能は急性期から回復期へ既に移行しつつあるが可児市、地域住民からの要求を踏まえ、現体制（急性期病床102床・地域包括52床）を維持する必要がある事を令和3年度の病床利用率が示している。 【課題】 医師・看護師の確保。	可児市及び地域住民からの要求を踏まえ、現体制を保ち急性期と回復期の両方を担う役割があるが、医師及び看護師数の不足により十分に応えられていない。現体制を維持しつつ、引き続き医師及び看護師の確保に努め、休棟中の病棟の再稼働を目指す。	実施 済み	実施 済み					令和3年2月までに段階的に、ハイケアユニット病床6床と一般急性期病床54床の合計60床を返還し、許可病床を250床から190床とした。
9		医療法人社団慶桜会 東可児病院	可児市	【現状、特徴】 脳神経外科を核に整形外科、循環器内科、消化器内科、一般内科、外科、眼科、透析の一般外来診察・入院（軽症コロナ感染症患者受け入れ含む）とともに可児市、御嵩町を中心とした第2次救急医療を担っている。 【課題】 医師不足、看護師不足による休床89床（一般病床29床、療養病床60床）の早急な稼働。	第2次救急指定病院として救急医療（急性期機能）を担うとともに高齢化率が増大する（可児市2025年30．0%超）ことによる慢性期機能（療養病床の稼働）の拡充を図る。 また、地域の医療機関（開業医）との連携で地域包括ケア病床の活用、当院の医療機器（CT、MRI）の共同利用で地域医療に貢献する。	○						機能別病床数 急性期病床　128床 慢性期病床　　60床
10		医療法人 馨仁会 藤掛病院	可児市	【現状、特徴】 一般病棟　地域一般入院基本料1　　57床 内、地域包括ケア管理料2　　9床 病院内　介護医療院　　入所定員50名 【課題】 病院内で急性期治療・回復期・慢性期対応が出来るように体制を整えては来たが、2025年に向けて、地域の診療所・病院、介護施設等とさらなる連携が必要である。	病院機能は現状で維持しつつ、在宅医療（訪問診療・訪問看護）に力を注げれるよう検討。						○	現在、一般病棟にて急性期・回復期の病床機能を有し、病院内介護医療院にて慢性期を対応。 訪問診療・訪問看護も既に実施しており、現在の機能を維持または高めていく事が今後の課題と考える為。
11		県北西部地域医療センター国保白鳥病院	郡上市	【現状、特徴】 実績（R3年度）：届出区分　46床　地域包括ケア病棟入院料1 平均在院日数19.8日、病床稼働率73.2% 特徴：4機能のうち在宅復帰、在宅支援の回復期機能に取り組んでいる。 他機関との連携：郡上市、白川村、高山市荘川町からなる県北西部地域の地域医療を支えるため、基礎自治体の枠組みを越えて各医療機関が広域的なネットワークを構築し医療の相互支援による取り組みを行っている。 【課題】 ・地域の医療需要の減少が見込まれるため、県北西部地域の安定的医療供給を目指して医療連携の更なる基盤強化を図る必要がある。	地域の現状を考慮し、ポストアキュート、サブアキュートを支え在宅へのつなぎ、あるいは在宅支援のための入院機能を持ちながら、外来・在宅を中心とした医療を展開し、保健介護との連携も継続しながら、市民の広義の健康づくりを支援していく。また県北西部地域のへき地医療を安定的に支えるため、その基盤強化と連携の充実を図る。	実施 済み	実施 済み		実施 済み			・令和2年4月1日より一般病床60床、結核病床4床の合計64床から一般病床46床に見直しを行い、その46床すべてを地域包括ケア病床とした。 ・令和元年12月19日に郡上市、高山市、白川村を医療連携推進区域とした一般社団法人県北西部地域医療ネットを設立し、R2年4月1日に岐阜県知事により地域医療連携推進法人の認定を受け、地域医療連携推進法人県北西部地域医療ネットとして活動を開始。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
12	変更	郡上市民病院	郡上市	【現状、特徴】 ・広大な中山間地を有し、30キロ圏内に三次救急病院がない郡上地域において、中心的な役割を担う医療機関として救急医療や急性期、慢性期病床機能に対応している。 ・地域で唯一の分娩取扱施設である。 【課題】 ・人口減少、高齢化等により変化する医療需要に対応するため、病床数・機能等の見直しを検討しているが、施設基準を満たす人材確保が出来ていない。 ・独居老人、老々介護の問題が深刻化する中、在宅に向けた介護施設が不足しており、退院後の療養体制が十分でない。 ・経常収支比率が100%を大きく下回っており、経営基盤が脆弱である。	患者さんが安心して療養生活を送れるよう、病診、病病連携、医療福祉（訪問介護、介護施設）との連携強化を図り、診療、入転院、救急対応を担う。	○			○			・設置主体が同じ国保白鳥病院と病院間の役割の明確化及び病院機能の統合・集約などについて協議している。 ・ICTを活用し市内公立医療機関において患者情報・診療情報の共有を図っている。 ・病床機能の一部を回復期病棟へ転換することを検討していたが、新たに生じた当医療圏における医療供給体制の変化に対応するため、再考する必要性が生じている。
13		社会医療法人 白鳳会 鷲見病院	郡上市	【現状、特徴】 郡上市人口３万９千人、65歳以上が40%と高齢化比率の高い地域である。南北に面積が広く南部は郡上市民病院・八幡病院、北部は鷲見病院・白鳥病院が一次・二次救急を担っており、当院は地域医療に求められている回復期（包括病床）慢性期病床も運用している。 【課題】 医師、看護師の高齢化　医療スタッフの確保	郡上市においては2020年より高齢化地域となっており、2025年以降現状から大きく65歳以上の高齢者が増えることはなく、現状の疾患、患者数と予測している。地域に見合った急性期、回復期、慢性期、僻地医療を提供できるよう、病診、病病連携の強化を図る。	○	○		○			①　近隣病院との調整が必要 ②　急性期病床数の見直し（現在は4階病棟をコロナ病床として使用） ④　近隣病院との連携、役割分担が必要
14		医療法人 新生会 八幡病院	郡上市	【現状、特徴】 人口減少、医療ニーズの変化などにより患者数が減少しており、厳しい経営環境である。消化器内科が強みであり、郡上市全域から集患しており、リハビリニーズには積極的に応じていきたい。 【課題】 病床稼働率の低下、職員の高齢化（人材育成）、設備の老朽化、経営基盤の強化など	病床機能再編、地域医療機関との機能分担・連携などにより、地域の医療ニーズに合わせた医療提供を目指す。ニーズの低い部門を縮小し、運営の効率化を図る。	実施済み	実施済み					2022年に療養病床７床と一般病床４床を削減 2023年５月に療養病床２０床と一般病床２床を削減
15		伊佐治病院	八百津町	【現状、特徴】 医療依存度が高く長期的な療養が必要となる患者様に対して、入院期間の制限がない病床として地域での役割を担っている。 【課題】 介護施設では対応できない医療依存度の高い患者様を受け入れる施設が少ない一方で、八百津町においては生産年齢人口の減少よりスタッフの確保が困難になっている。	引き続き、介護施設や在宅での療養が困難な患者様に対して入院期間の制限がない病床として地域での役割を担っていく。						○	地域の医療機関さまと協力し役割分担を行っている。 そのなかで医療法人大治会においては療養病棟や有床診療所、介護施設等必要なサービスを提供している。 今後も病床のある医療法人として、地域において必要な事業を継続する。
16		医療法人 白水会 白川病院	白川町	【現状、特徴】 白川町、東白川村など近隣の唯一の病院であることで、地域医療と救急医療を担っている。そのため総合科を中心に歯科、眼科を維持している。 【課題】 1．地域急性期病院の充実（①医師確保　②整形外科・眼科の常勤化） 2．療養病床の維持 3．地域救急医療の継続	白川町、東白川村唯一の病院であり、地域医療、救急を担う						○	今まで同様、近隣の唯一の病院であることで、地域医療と救急医療を担う。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
17		桃井病院	御嵩町	【現状、特徴】 人口2万人の可児郡に唯一の病院として在宅・介護・入院・救急の分野を担うこと、県立多治見病院や中部国際医療センターなどの地域医療に欠かせない機関との連携を深めて3次救急のベット確保に当院への転院受入れを積極的に実施。 【課題】 看護、介護職員の確保に苦慮。特に介護職についてはコロナによるイメージで病院での就職を避ける傾向にある（ハローワーク談）。 病院機能は今後も変わることはないので人員確保が課題。	病院での看取りには限界があり特に療養病床は特養と同じで死亡退院でベッドが空かない限り新規受け入れは困難。 いかに入院患者を在宅へシフトしていくか・・・を踏まえると在宅サービスの更なる充実が求められる。						○	当地のニーズを考察するにやはり自宅へ戻る選択ができない家庭環境（家族構成、住宅構造、金銭面など）が多いのは現実である。その中でできるだけたくさんの医療介護サービスを選択できる選択肢を用意できている現時点においては理想的な環境にある。
18		せきレディースクリニック	関市	【現状、特徴】 1次施設としての産科・婦人科診療 【課題】 特になし	1次施設としての産科・婦人科診療						○	今後の医療ニーズを踏まえて、現在の医療機能の維持が必要
19		佐藤歯科医院	美濃加茂市	【現状、特徴】 専門歯科医療を担って診療所の役割を補完する機能をもつ 【課題】 現状以上に急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、歯科医療を提供する必要がある	急性期患者に対し、これまで以上に質の向上をさせ、安全で安心な歯科医療を提供することを目標とする						○	歯科医療における急性期病床はほとんどないため、必要な病床を確保する必要がある。
20		いど眼科	美濃加茂市	【現状、特徴】 白内障手術患者を日帰り入院させている。 【課題】 短期滞在手術等基本料1の施設基準の見直しに伴い、入院ベッドをなくすか検討する。	無床診療所に変更をする予定。		○					無床診療所に変更。
21		岩永耳鼻咽喉科	美濃加茂市	未回答								
22		渡辺医院	美濃加茂市	【現状、特徴】 現在、入院治療はなく、外来診療のみです。静脈麻酔にて婦人科処置後の安静・休養のため、病床を確保しています。母体保護法の基準病床を満たす必要もあります 【課題】 流産手術後、子宮内膜全面掻把術後の病床数は、スタッフ不足で増やせません	産科もなく、処置数が増やせないこともあり、縮小を検討中です						○	今後の処置数が、増加しないと予測されるため
23		ふかがや眼科	美濃加茂市	【現状、特徴】 入院施設を要する眼科医院は近隣では皆無であり、交通弱者、僻地、独居など入院手術を希望する患者に対し、一定のニーズがある。 【課題】 入院可能な病院との棲み分け	現在と同様、入院希望の患者に対応する。						○	全身疾患を有さない患者、あっても軽症で内科的な疾患を近隣のかかりつけ医で管理中の患者は、入院手術を希望する場合であっても、近隣での中核病院での手術をきらう傾向がある。待ち時間や、病院ならではの小回りの利かなさがネックとなっていると考えられる。そのような患者に対し、従来通りの医療を提供したい。

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
24		ローズベルクリニック	可児市	【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。 ◆診療実績　月平均分娩数＝60.0件 （2022年1月～6月実績） 【課題】 特になし	分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えていきます。						○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要として いないため。
25		にしむら眼科	可児市	未回答								
26		とまつレディースクリニック	可児市	【現状、特徴】 産科を中心に、幅広い年齢層の患者様が来院されております。優しく・明るく・快適なクリニックを開業当初から意識し、アットホームな温かい雰囲気で患者様を迎え、患者様の立場に立った診療をする。 【課題】 急激な分娩数の減少に対してどう対応するか。	少子化対策に協力し、少しでも地域社会に貢献する。今後も助産師の育成に協力する。				○			④総合病院との連携をより強固のものにしていくため、定期的に連絡会議等行う。母体合併症等リスクのある方や新生児治療が必要な場合は対応可能な総合病院に依頼する先生と相談し紹介することにしております。
27		大和医院	郡上市	【現状、特徴】 現在休床中。 【課題】 豪雪地帯山間部にあり、人口減少地域のため。	検討中					○		地域的住民には病床回復を望む声もあるが、歴史的、人的・物理的・経済的・環境的難題があり、解決に 至っていない。
28		県北西部地域医療センター国保和良診療所	郡上市	【現状、特徴】 県北西部地域医療センターの枠組みの中で、地域住民の医療、福祉、健康を守る、へき地診療所として、持続可能な地域医療の提供に取り組んでいる。 【課題】 ・患者数の減少による診療収入等の減少が続いている。 ・医療従事者の確保が難しくなってきている。	医療や介護を必要とする高齢者の増加が見込まれることから、身近なかかりつけ医療機関として、また在宅診療を提供する医療機関として、地域住民の健康を総合的に支援する。			実施 済み	実施 済み			③整形外科の廃止（令和2年4月） ④地域医療連携推進法人の設立（令和2年4月）
29		かわべ眼科	川辺町	未回答								
30		医療法人社団 麟生会 田原医院	川辺町	【現状、特徴】 高齢者の終末医療中心 【課題】 看護師の確保	現状を続ける予定						○	他病床への変換は不可能 人的確保が問題
31		粕谷医院	八百津町	未回答								
32		伊佐治医院	八百津町	【現状、特徴】 肛門科の手術の患者に加えて、地域の患者様や在宅医療の患者の急変時に入院等で対応している。 【課題】 高年齢層が増えていく中で、介護施設との連携も取りながら、急性期や回復期を脱した後の患者の在宅医療への橋渡し	現状の課題達成のために継続取り組みを行う						○	今後も肛門科と、地域の患者様や在宅医療の患者の急変時に対応していくため

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
33		御嵩クリニック	御嵩町	【現状、特徴】 在宅や施設から二次救急病院へ入院後もとの所に帰れない患者の受け皿としての機能が当院の存在意義であります。 【課題】 特になし。	現在と同じです。						○	現状の存在意義に変更はない。
34		今井内科	可児市	【現状、特徴】 (現状)地域における日常診療 (特徴)呼吸器・内分泌科業務に強いこと。 【課題】 職員が高齢化する中、現状を維持すること。	患者ニーズを把握し、可能な範囲でそれに対応してゆきたい。						○	現状で地域医療のニーズに沿っていると思うから。